

第235号

目 次

関係法令	2	富山大学学長候補者選挙	8
学内規則	2	学生部長の改選	9
富山大学保健管理センターの所長及び教官選考		保健管理センター所長の改選	9
規則の一部改正	2	永年勤続者の表彰	9
諸会議	2	海外渡航者	10
学事	3	中国遼寧省長一行の来学	10
学位取得者	3	柳田学長の中国訪問	11
昭和58年度科学研究費補助金交付内定	3	寄稿〈欧米における大学教育と図書館〉	11
昭和58年度科学研究費補助金申請・採択状況	4	保健管理センターだより〈学生生活について〉	
昭和60年度富山大学入学者選抜学力検査実施教科・科目の公表	5	(その1)	12
人事異動	5	職員消息	15
学内諸報	8	主要行事	16
職員の服務規律について	8	資料	19
就職協定について	8	昭和57年度卒業生産業別就職状況	19
		地域別就職状況	20

関係法令

	(官報掲 載月日)		(官報掲 載月日)
法 律		○昭和58年度科学研究費補助金の計画調書の提出期間を定める件(文部65)	5・19
○学校教育法の一部を改正する法律(55)	5・25	○昭和58年度小学校教員資格認定試験を実施する件(文部68)	5・30
○医学及び歯学の教育のための猥体に関する法律(56)	5・25	○昭和58年度高等学校教員資格認定試験を実施する件(文部69)	5・30
告 示		○昭和58年度特殊教育教員資格認定試験を実施する件(文部70)	5・30
○昭和59年度科学研究費補助金の計画調書の提出期間を定める件(文部64)	5・14		

学内規則

富山大学保健管理センターの所長及び教官選考規則の一部改正

富山大学保健管理センターの所長及び教官選考規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和58年5月18日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学保健管理センターの所長及び教官選考規則の一部を改正する規則

富山大学保健管理センターの所長及び教官選考規則(昭和50年5月30日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第3項」を「第4項」に改める。

附 則

この規則は、昭和58年5月18日から施行する。

▶ 富山大学保健管理センターの所長及び教官選考規則の改正理由

本学保健管理センター規則(昭和50年5月30日制定)の一部改正(昭和51年4月23日付)で、同規則第4条第3項(学生相談員)が新設になり、旧第3項が第4項として規定されていたため。

諸 会 議

第5回学長選考管理委員会(5月6日)

(2)引継事項の確認について

昭和58年度第1回附属図書館商議会(5月10日)

(報告事項)

(1)第34回北信越地区国立大学図書館協議会について

(審議事項)

(1)電算化委員、地図情報室小委員館報編集委員の選任について

昭和58年度第1回入学試験管理委員会(5月10日)

(報告事項)

(1)昭和58年度入学状況について

(審議事項)

(1)昭和59年度富山大学入学者選抜試験の実施に伴う基本方針について

授業料等減免選考委員会（5月12日）

第6回学長選考管理委員会（5月16日）

（審議事項）

(1)昭和58年度前期分授業料免除について

第7回学長選考管理委員会（5月17日）

昭和58年度第2回補導協議会（5月12日）

昭和58年度第2回評議会（5月17日）

（審議事項）

(1)第28回大学祭について

（審議事項）

(1)次期学長候補者について

学 事

学 位 取 得 者

取得者 理学部 助教授 鈴木 正昭

取得学位 理学博士（九州大学）

取得年月日 昭和58年4月19日

学位論文名 A study on the intrinsic metrics

内在的計量に関する研究

昭和58年度科学研究費補助金交付内定

研究種目	研究代表者			研究課題	配分子定額（千円）		
	所属	官職	氏名		昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
エネルギー特別研究(核融合)(1)	トリチウム科学センター	教授	渡辺 国昭	二次電子増倍管及び質量分析計の性能に対するトリチウムと放射線の影響に関する研究	5,000	0	0
" (2)	理学部	助手	高安 紀	水素中に存在するトリチウム濃縮のための熱拡散装置の試作	2,500	0	0
一般研究(A)	"	教授	堀越 毅	島弧の火成活動の地球化学的進化の研究	1,300	1,000	0
一般研究(B)	人文学部	"	秋山 進午	中国古代土器・陶磁器の様式史的研究	2,800	900	800
"	理学部	"	小黒 千足	下等脊椎動物におけるCALCEMICホルモンの標的器官の決定とレセプターの解明	1,000	0	0
"	工学部	"	若林嘉一郎	塩化ビニル重合の暴走時における人間の制御特性	1,100	0	0
一般研究(C)	教育学部	助教授	横山 泰行	精神薄弱児の体力基準値策定に関する研究	600	600	0
"	理学部	教授	松本 賢一	クォーク・レプトンの“世代”自由度とクォーク・レプトンの複合模型	800	0	0
"	"	助教授	尾島 十郎	新しい大環状ル-電子系の合成と物性に関する研究	1,300	0	0
"	"	"	川崎 一朗	地震波速度異方性を考慮した東太平洋上・部マントル速度構造	600	500	0
"	"	"	鈴木 正昭	複素多様体上の双正則不変計量	1,200	0	0
"	工学部	"	松本 賢司	超音波振動による超塑性変形能の向上に関する研究	600	0	0
"	教養部	教授	河野 昭一	高等植物繁殖戦略の比較生態学的研究	700	0	0
"	"	助教授	小林久寿雄	確率論の応用的側面の研究	1,100	0	0
奨励研究(A)	人文学部	"	鈴木 敏昭	幼児における音韻能力の確立過程に関する研究	800	0	0
"	"	講師	釘貫 亨	古代日本語101-101対立崩壊過程に関する基礎的研究	800	0	0
"	経済学部	助教授	小郷 直言	ビジネス・コンサルテーション・システム(知識工学的手法による仕訳伝票の自動作成)	800	0	0
"	"	"	萩野 聡	複数当事者の存する行政行為の研究-西ドイツ連邦建設法における相隣関係の考察-	800	0	0
"	理学部	"	久保 文夫	正值作用素の平均の線型システム解析的研究	1,100	0	0
"	"	助手	河田 洋	X線二結晶法を用いた表面歪み分布の精密測定による強誘電体表面層の研究	900	0	0
"	"	"	中村 省吾	クラミドモナス鞭毛運動系の部分的再構成	1,000	0	0
"	"	文部技官	小松美英子	間接発生源のヒトデとクモヒトデの後期発生一特に浮遊幼生の飼育法の確立一	900	0	0
"	工学部	講師	袋谷 賢吉	生体における色彩画像情報の圧縮過程の解析	1,150	0	0
"	"	助手	石原 外美	炭素鋼の腐食疲労強度に及ぼす溶存酸素及び切欠きの影響	1,100	0	0

(注) 他大学転出者分を除く。

昭和58年度科学研究費補助金申請・採択状況

(単位：千円)

研究種目	部局名	人文学部		教育学部		経済学部		理学部		工学部		教養部		トリチウム科学センター		計		採択率(%)
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
自然災害特別研究(2)	申請			1	1,420											1	1,420	0
	採択			0	0											0	0	
エネルギー特別研究(核融合)(1)	申請													1	5,176	1	5,176	100
	採択													1	5,000	1	5,000	
" (2)	申請							2	5,207							2	5,207	50
	採択							1	2,500							1	2,500	
特定研究(2)	申請							1	1,900	2	4,668					3	6,568	0
	採択							0	0	0	0					0	0	
総合研究(A)	申請	1	7,700													1	7,700	0
	採択	0	0													0	0	
一般研究(A)	申請							(1) 2	(1,300) 27,388							(1) 2	(1,300) 27,388	50
	採択							(1) 1	(1,300) 1,300							(1) 1	(1,300) 1,300	
" (B)	申請	3	13,402	3	18,355			(1) 7	(1,000) 48,302	(1) 6	(1,100) 25,285	1	5,116			(2) 20	(2,100) 110,460	15
	採択	1	2,800	0	0			(1) 1	(1,000) 1,000	(1) 1	(1,100) 1,100	0	0			(2) 3	(2,100) 4,900	
" (C)	申請	7	9,949	12	17,069	1	1,844	25	56,005	(1) 25	(600) 50,553	(1) 13	(700) 15,621			(2) 83	(1,300) 151,041	9.6
	採択	0	0	1	600	0	0	4	3,900	(1) 1	(600) 600	(1) 2	(700) 1,800			(2) 8	(1,300) 6,900	
奨励研究(A)	申請	4	4,439	2	2,146	5	4,994	6	6,708	6	6,927	2	2,357	2	2,144	27	29,715	37.0
	採択	2	1,600	0	0	2	1,600	4	3,900	2	2,250	0	0	0	0	10	9,350	
試験研究(1)	申請			1	5,000	1	6,803									2	11,803	0
	採択			0	0	0	0									0	0	
" (2)	申請			1	1,282			1	3,100							2	4,382	0
	採択			0	0			0	0							0	0	
計	申請	15	35,490	20	45,272	7	13,641	(2) 44	(2,300) 148,610	(2) 39	(1,700) .87,433	(1) 16	(700) 23,094	3	7,320	(5) 144	(4,700) 360,860	16.7
	採択	3	4,400	1	600	2	1,600	(2) 11	(2,300) 12,600	(2) 4	(1,700) 3,950	(1) 2	(700) 1,800	1	5,000	(5) 24	(4,700) 29,950	
採 択 率 (%)		20		5		28.6		25		10.3		12.5		33.3		16.7		

(注) 1. () 内数字は継続を内数で示す。
2. 他大学転出者分を除く。

昭和60年度富山大学入学者選抜学力検査実施教科・科目の公表

本学は、昭和57年度からの高等学校学習指導要領の改訂に伴う「昭和60年度富山大学入学者選抜学力検査実施教科・科目」を本年3月28日に別表のとおり公表しました。

これによると、出題範囲・内容についての主な相違点は次のとおりです。

- 人文学部では、外国語について現行の英語・ドイツ語に新たに朝鮮語・中国語・ロシア語を加えたこと。
- 教育学部の小学校・養護学校・幼稚園教員養成課程では、2教科を1教科とし新たに実技検査を加えたこと。(別表は6頁～7頁に掲載)

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採 用	58. 5. 16	湯 川 純 幸		講師(教養部)	富山大学長
昇 任	58. 6. 1	中 川 孝	助教授(教育学部)	教授(教育学部)	文部大臣
	"	濱 名 正 道	講師(教育学部)	助教授(")	"
	"	竹 越 栄 俊	" (工学部)	" (工学部)	"
併 任	58. 5. 2	山 口 博	教授(人文学部)	評議員(58.5.2~60.5.1)	"
	"	梶 井 陟	" (")	" (")	"
	"	小 黒 千 足	" (理学部)	" (")	"
	"	後 藤 克 己	" (")	" (")	"
	58. 5. 9	本 田 弘	" (人文学部)	学生部長・評議員(58.5.9~60.5.8)	"
	58. 5. 17	塚 島 寛	" (工学部)	評議員(58.5.17~58.5.31)	"
	"	高 辻 雄 三	" (")	評議員の併任を解除する	"
	58. 6. 1	大 塚 恵 一	" (教育学部)	評議員(58.6.1~60.5.31)	"
	"	野 村 昇	" (")	" (")	"
	"	塚 島 寛	" (工学部)	" (")	"
	"	藤 田 宏	" (")	" (")	"
公の名称の付加	58. 5. 22	大 澤 欽 治	" (教育学部)	富山大学長事務代理を命ずる 富山大学経営短期大学部学長事務代理を命ずる	"
	"	四 谷 平 治	" (工学部)	富山大学学生部長事務代理を命ずる	富山大学長
公の名称の消滅	58. 6. 1	大 澤 欽 治	" (教育学部)	富山大学長事務代理を免ずる 富山大学経営短期大学部学長事務代理を免ずる	文部大臣
	"	四 谷 平 治	" (工学部)	富山大学学生部長事務代理を免ずる	富山大学長

昭和60年度富山大学入学者

学部(学科・専攻・課程)名		教 育 学 部														経済学部										
		人文学部		小学校教員養成課程		中学校教員養成課程(国語, 社会, 英語専攻)		中学校教員養成課程(数学, 理科, 家庭, 技術専攻)		中学校教員養成課程(音楽専攻)		中学校教員養成課程(美術専攻)		中学校教員養成課程(体育専攻)												
科目数等		出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数									
出題教科・科目名																										
国語	国語 I	◎	2	○	2	○	2		2		2		2		2		2									
	国語 II	◎		○		○																				
数学	代数・幾何			○	2 (3教科 [国語・数学・外国語] のうちから1教科を選択)		2 (2教科 [国語・外国語] のうちから1教科を選択)	○	2 (2教科 [数学・外国語] のうちから1教科を選択)		2		2		2		2									
	基礎解析		○			○																				
	微分・積分																									
	確率・統計																									
理科	物理				2 (3教科 [国語・数学・外国語] のうちから1教科を選択)		2 (2教科 [国語・外国語] のうちから1教科を選択)		2 (2教科 [数学・外国語] のうちから1教科を選択)		2		2		2		2									
	化学																									
	生物																									
	地学																									
外国語	英語 II	○	英語は2その他は1	○	2 (3教科 [国語・数学・外国語] のうちから1教科を選択)	●	2 (2教科 [国語・外国語] のうちから1教科を選択)	○	2 (2教科 [数学・外国語] のうちから1教科を選択)		2		2		2		2									
	英語 II B	○		○		○																				
	ドイツ語	○																								
	朝鮮語	○																								
	中国語	○																								
	ロシア語	○																								
芸術体育	音楽実技			○	1		1		1	◎	1		1		1		1									
	美術実技		○													◎										
	体育実技		○																◎							
合 計		8	4 又は3	9	3	4	2	4	2	1	1	1	1	1	1	1	5	2 又は1								

備考 ●は必ず受験しなければならない科目を, ○は選択科目を示す。

選抜学力検査実施教科・科目

理 学 部								工 学 部								摘 要	
数 学 科		物 理 学 科		化 学 科		生 物 学 科		地 球 科 学 科		電 気 工 学 科 機 械 工 学 科 生 産 機 械 工 学 科 電 子 工 学 科		工 業 化 学 科		金 属 工 学 科 化 学 工 学 科			
出題 科目	受 験 目 数	出題 科目	受 験 目 数	出題 科目	受 験 目 数	出題 科目	受 験 目 数	出題 科目	受 験 目 数	出題 科目	受 験 目 数	出題 科目	受 験 目 数	出題 科目	受 験 目 数		
																} 同一試験時間内に 解答させる。	
○	4	○	2	○	2	○	2	○	2	○	2	○	2	○	2		} 同一試験時間内に 解答させる。
○		○		○		○		○		○		○					
○																	
○																	
		○	1		1	○	1	○	1	○	1		1	○	1	} 同一試験時間内に 解答させる。	
		○		○		○		○									
				○				○									
						○											
																} 同一試験時間内に 解答させる。	
4	4	3	3	3	3	5	3	5	3	3	3	3	3	4	3		

学 内 諸 報

職員の服務規律について

このことに関して、本年5月16日付けで学長から各部局長あてに次のとおり文書で通知されました。

職員の服務規律の保持について(通知)

本学職員の服務規律の保持については、従前から御留意願っているところでありますが、今後、より一層国家公務員としての自覚を促し、社会の疑惑を招く行為のなきよう、監督・指導の立場にある者から卒先垂範するとともに、所属職員に対しても、特に下記事項について、指導・監督方御配慮願います。

なお、標記に反する事案が発生した場合は、速やかに庶務部人事課長あて報告願います。

記

1. 交通事故の防止

交通事故の発生を未然に防ぎ、交通安全を図るため、職員に対し、自動車等(自転車及び自動二輪車を含む。)の運転に当たっては、交通方法及び安全運転等の注意義務を厳守させるとともに、万一交通事故を惹起したときは、関係法令に照らし厳罰(特に酒酔運転は懲戒処分)に処せられることを周知徹底願います。

2. 勤務時間及び休暇

職員の勤務時間、休憩時間及び休息時間は、「富山大学職員の勤務時間、休憩時間及び休息時間等に関する取扱いについて(昭和42年11月28日学長裁定)」により定められておりますが、別に勤務時間の割振りがなされている者については特に留意のうえ、職員個々の勤務時間(勤務の開始・終了時間及び休憩・休息時間)を周知徹底され、厳正に勤務時間の管理を願います。

また、年次休暇については、職員に対し、休暇制度の趣旨を十分に啓蒙し、年次休暇の適正使用の周知徹底を図るとともに、法令に基づいた休暇以外は一切これを認めないよう願います。

3. 併任・兼業

職員の併任・兼業については、勤務時間外に行うことが原則であり、職員に対し、併任・兼業に従事する場合には、事前に関係法令の定めるところにより、勤務時間の割振り及び併任・兼業の承認・許可を受けるよう周知徹底願います。

就職協定について

例年、大学卒業予定者の就職事務につきましては、大学等11団体からなる就職問題懇談会において決定された「昭和54年度以降の大学及び高等専門学校卒業予定者のための就職事務に関する申し合わせ」いわゆる「就職協定」を踏まえて実施しているところですが、引き続き本年度も文部省大学局長から協定遵守についての通知がありましたので、教職員におかれましても

富山大学学生部長 本田 弘
その趣旨を御理解のうえ御協力くださいますようお願いいたします。

- 学生に対する求人内容の提示……卒業前年の9月10日以降
- 求人(求職)のための企業と……卒業前年の10月学生との接触開始 1日
- 選考開始……卒業前年の11月1日

富山大学学長候補者選挙

柳田友道学長の任期が、昭和58年6月12日に満了することに伴う次期学長候補者の選挙が5月17日に行わ

れました。
同選挙は、学長候補適任者選定委員会(委員長 杉

本新平教授)から学長候補適任者として選定された次の5氏について、同日10時から12時までの間本学職員会館で選考管理委員会(委員長 大塚恵一教授)管理のもとに行われました。

梅原 隆章 (富山大学教養部長)
大澤 欽治 (富山大学教育学部長)
杉本 新平 (富山大学教授)
竹内豊三郎 (富山大学名誉教授)

柳田 友道 (富山大学学長)

その結果、初回投票において有効投票の過半数の得票者がなかったため、高得票者竹内豊三郎、柳田友道の両氏について決選投票を行い、有効投票 309票のうち211票を得た柳田友道現学長が再選され、同日15時から開催された評議会において次期学長候補者に決定されました。任期は富山大学学長選考基準に基づき、昭和58年6月13日から2年間。

学生部長の改選

四谷平治学生部長の任期が、昭和58年5月8日に満了することに伴う次期候補者の選考は、4月15日開催の評議会において教務委員会及び補導協議会の合同委員会から推薦のあった3名の本学教授のうちから投票によって行われ、本田 弘教授(人文学部)が選出されました。任期は、昭和58年5月9日から2年間。

本田教授は、昭和28年3月富山大学文理学部文学科卒業、昭和36年3月東北大学大学院文学研究科博士課

程を経て同年4月東北大学文学部助手、37年3月富山県技術吏員、同年4月富山県立大谷技術短期大学講師、38年4月同助教授、41年5月鳥取大学教育学部助教授、42年4月同教養部助教授、45年12月同教授、51年4月富山大学文理学部教授、52年5月人文学部教授となり、同年から評議員に、54年5月2日から58年5月1日まで人文学部長にそれぞれ併任されました。

専門は、哲学、富山県出身。

保健管理センター所長の改選

浅井 亨保健管理センター所長の任期が、昭和58年6月30日に満了することに伴う次期候補者の選考は、4月30日開催の保健管理センター委員会で行われ、そ

の結果、現職の浅井 亨教授(人文学部)が再選されました。任期は、昭和58年7月1日から2年間。

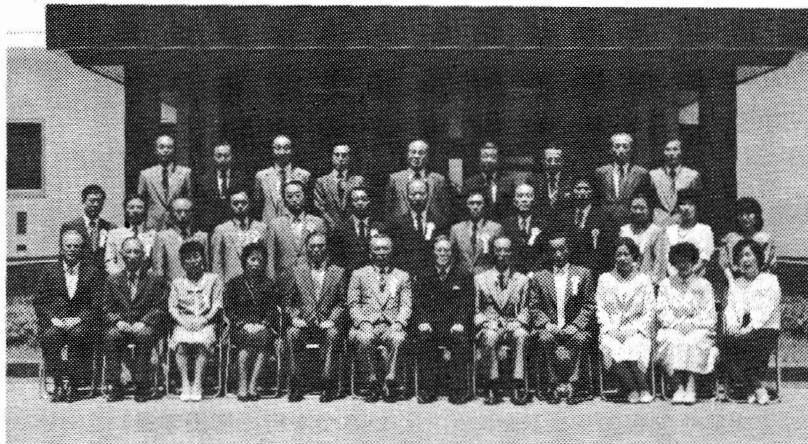
永年勤続者の表彰

本学の昭和58年度永年勤続者表彰式が、開学記念日の5月31日(水)午前11時から事務局中会議室において行われました。

表彰式には、各部局長等多数が列席され、35年勤続11名、20年勤続15名の次の方々に対し大澤欽治学長事

務代理から表彰状並びに記念品が贈られました。

引き続き事務局大会議室において懇談会が開催され、学長事務代理並びに各部局長等から永年の労をねぎらわれ、和やかな雰囲気うちに終了しました。



(昭和58年度永年勤続者表彰式の記念撮影)

35年勤続 (11名)

経 理 部 田嶋 スミ 工 学 部 宮尾 嘉壽
 施 設 課 前島 健治 " 神田 睦夫
 教育学部 泉 敏郎 教 養 部 梅原 隆章
 " 結城 善之 " 金岡スミ子
 " 多村 節子 附属図書館 結城 敏
 工 学 部 大井 信一

20年勤続 (15名)

経 理 部 井城小三郎 教育学部 西野 秀夫
 人文学部 長沼忠兵衛 " 杉村 修
 " 提山 淑郎 経済学部 中田 節子
 人文学部・ 坂東 康子 " 安部 保子
 理 学 部 " 田村 与市 工 学 部 藤田 宏
 教育学部 新井 文男 " 真田 敏江
 " 中村 義朗 " 西村 昭治
 " 木本 武男

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外国出張		学 長	柳田 友道	中華人民共和国	遼寧大学との学術交流関係の樹立及び中国の高等教育機関の事情視察のため	58. 5. 22 } 58. 6. 1
	人文学部	教 授	本田 弘	"	"	"
	"	助教授	夫馬 進	"	明清都市社会の研究のため	58. 5. 25 } 59. 3. 23
	理 学 部	"	鳴橋 直弘	連合王国, フランス, オーストリア, オランダ, ドイツ連邦共和国, スウェーデン	アジア産キイチゴ属(Rubus)の分類学的研究のため	58. 6. 1 } 59. 3. 31
	工 学 部	"	宮下 尚	大 韓 民 国	第3回太平洋化学工学会議(PACHEC'83)に出席・講演のため	58. 5. 7 } 58. 5. 12

中国遼寧省長一行の来学

去る5月9日(月)午後5時10分、中華人民共和国遼寧省長全 樹仁氏(ぜん しゅにん)を団長とする遼寧省からの来県団8名が学長表敬のため富山県総務部次長の案内で来学されました。

これは、富山県置県100年記念式典に参加するため来県され、県内視察の一環として本学へ立ち寄りられたものです。

一行は、学長室において、学長から本学の概要説明を聞いた後、本学と遼寧大学との留学生交換など両大学における学術交流の具体策について積極的に意見の交換を行い、午後5時50分に本学を後にされました。



(事務局大会議室で、中国遼寧省長ら一行に歓迎のあいさつを行う柳田学長)

柳田学長の中国訪問

柳田友道学長と本田 弘学生部長は、5月22日(日)から6月1日(水)までの11日間中国を訪問され、その間、同23日、24日の両日遼寧大学の高仕克第1副校長ら幹部と学術交流について会談を行った後、北京大学、中国科学院微生物研究所及び復旦大学などを視察され、6月1日に帰国されました。

今回の訪問は、富山大学と遼寧大学（中国遼寧省瀋陽市所在）との間の学術文化の交流を促進し、両大学の相互理解を深めるための協定樹立に向けての打合せと、中国の大学等における教育研究事情を視察し、今後の日中両国間の学術文化面における友好親善を図ることを目的としたものです。

遼寧大学との交流推進の背景としては、かねてより本学人文学部を中心に東アジアの研究を推進する機運があったところ、昭和57年9月29日から同年10月14日までの間、富山県知事を団長とする日中友好富山県青年海外派遣団が中国遼寧省を友好訪問した際、学長から遼寧大学校長に対し、両大学間の学術交流推進を希望する旨の親書を県知事に託し、その橋渡しを依頼しました。これに対し、遼寧大学校長から交流を歓迎する旨の返書があり、更にその後本学学長の訪中を促す招へい状が届けられました。

これを受けて、本学としては本年3月開催の評議会において学術交流及び友好協力関係樹立のための協定書草案が承認され、その後遼寧大学に草案を送り意向

を打診していたところ今回の訪問となったものです。

遼寧大学は、人文・社会科学系と自然科学系の10部局を有し（学部学生数約3,700人）、また、附属の日本研究所では日本の経済や歴史を中心に研究が進められています。

今回の訪問の結果、文献の交換、教員・学生の交流など交流内容について双方で基本的に合意がなされ、学術提携の協定書の締結は来年5月までに本学で行われる運びとなりました。今後、両大学間の学術交流は大きく前進することが期待されます。



（中国遼寧大学構内で同大学幹部と記念撮影を行う柳田学長と本田学生部長）

寄 稿

〈欧米における大学教育と図書館〉

教育学部助教授 實 清隆

このほど、文部省の在外研究員として、欧米14か国を訪れ、数多くの大学・研究所を見る事が出来た。

欧米の大学生はよく勉強する。授業も教授の講義を「拝聴」という受身的なものでなく、ディスカッションの時間が多い。このディスカッションを通じて学生は鍛えられて行く。

実は、このディスカッションに参加する事は大変な

事なのだ。小生が長く滞在したマサチューセッツ工大の都市研究学部の場合だが、例えば、都市計画法の授業だと、毎時間、3～5種類もの文献、合計100～150頁もの assignment がある。次の時間には、その文献についてのコメントが要求される。実に厳しい。

学生はよく図書館を利用する。図書館はメインのもの以外に各学部、場合によっては学科毎あり、開館時

間も通常夕方8時頃迄利用出来る。日曜日でも午後から可能である。学生用の図書館は土・日も含め終日開いている。図書はほとんどが開架式であり、学生でも自由に取り出し出来るので、図書館内なら借り出す手続きの紛らわしさが無く、その上、librarian が親切に相談してくれる。更に、コイン投入式コピー機が数台あり、即座にコピーが取れるのも大変便利だったように思う。

要するに、学生は図書館でよく勉強出来るようにしつらえてあるのであり、だからこそ、教授も思い切ったかなりハードな assignment を学生達に課す事が出来る。学生達は暇があると図書館で勉強している。日曜日の午後でも、大勢の学生が勉強していた。また、勉強しないと授業についていけないのだ。

確かに、大学の入学時点での日本の学生の academic standard は欧米に比べ、高いと思う。だが大学では、その地位が逆転する。ノーベル賞等の受賞者が少ない

のも、この大学教育にある事は確かだ。とりわけ、教育・研究にとって重要な位置にある図書館の充実、整備は緊急でかつ重大な課題だ。その意味で、日本の将来の学問・研究・教育の発展の事を考えると、この図書館への「投資」は惜しんではならないと思う。

ついでに言えば、日本の企業内教育（社員研修）は、欧米諸国がうらやむほど高いレベルにある。ここに、日本企業の世界での優位性の秘密があると言っても過言ではない。大学教育が丁度、谷間にある感じで、「もっと大学教育の充実を！」と叫びたくなる。

▶ 筆者は、文部省在外研究員長期甲種として、昭和57年3月15日から昭和58年3月14日まで1年間アメリカ合衆国及び西ドイツなどヨーロッパ各国に外国出張されましたので、特に寄稿を御依頼したものです。

保健管理センターだより

～学生生活について(その1)～

保健管理センター講師 高尾 テルノ

最近の学生相談内容のうち、徐々に増えているのは対人関係の問題である。

例えば、友達が欲しいが、友達を作ることができない。

- ・親しい友人が欲しい—欲しいが恥かしくて話せない。
 - ・話をするにも考えたことは話せるが、感じたことを話すことが出来ない。
 - ・人は自分をどう見ているであろうか。
 - ・友達がいなくて、下宿と教室を往復するだけで教養時代は砂漠のようなものだ。
 - ・教養時代は大勢の中の一人でもよかったが、これから専門課程に入ると少人数になり、教官と1対1になることを考えると心配だ……などの相談を受ける。
- これらのことは、進学競争と親の過保護から狭い範囲の対人関係しか経験しなかったことから生ずるので、来談者だけではなく、多くの学生が持っている悩みの一つではなかろうかと考えられる。

また「現在の大学生活について」次の様な感想を述べている。

- ・物事に対して真剣に考えたり、話し合ったりするこ

とがなく、自分の意見もなくただ人の意見に従っているだけである。

- ・今、何よりも不安なのは、自分は取り返しのつかない時間と精力を浪費しているのではないかと～。
- ・～没頭する何かが見つからない、いや見つけようもしない自分～。
- ・何かをやり遂げようということもなく、自分を律することも出来ず、ただ漠然と時を過ごしている。
- ・～恵まれすぎて緊迫感がない、物事を考えるなどということがない。
- ・自由がありすぎてどう時間を費せばよいか分からない。
- ・目的意識を持たない今の生活を考えると少し不安である。
- ・精神的焦りがひどい、この焦りを解決するキッカケというものを見つけない……など。

もちろん、クラブやサークルに加入して生きがいを感じているもの、専門課程に移行してから友人が出来た。自分のやりたいことが分かりかけてきたなどもあった。

学生達が大学生生活を一層充実させ、有意義なものにしていくために、また学生相談をより深めていくための一助として、昭和56年10月(N 220)57年10月(N 648)の2回、学生生活についてのアンケート調査を実施した。その調査結果を今回は、悩みの内容とその解決方法(相談相手)について述べて見たいと思う。

まず、話せる友人がいないとか、悩みの相談相手、悩みの解決方法などから考えて、課外活動の加入、未加入に関係があるのではないかと推測し、課外活動の加入群、途中群(途中でやめた)未加入群の3つの群に分けて考察してみました。

1) 課外活動の加入状況

表1 課外活動の加入状況 (%)

項目	年度 性別	56			57		
		M	F	T	M	F	T
加入群		58	69	62	70	84	76
途中群		16	16	16	9	7	8
未加入群		26	15	22	21	9	16
T (%)		100	100	100	100	100	100
N		133	87	220	392	261	653

2) 悩みの有無

表2 悩みの有無 (%)

項目	年度 群	56				57			
		加入	途中	未加入	全体	加入	途中	未加入	全体
全くない		8	11	23	12	16	17	18	16
多少悩んでいる		80	63	71	74	72	81	59	70
ひどく悩んでいる		11	23	6	12	11	2	22	12
その他		1	0	0	1	1	0	0	1
無記入		0	3	0	1	0	0	1	1
T (%)		100	100	100	100	100	100	100	100
N		137	35	48	220	494	52	107	653

高校・大学時代は、ある意味でもっとも悩み多い時代である。悩みの全くないのは12~16%で、多少悩んでいる、ひどく悩んでいる、要するに何らかの型で悩んでいる者は86~82%と今回の調査結果から90%近くの学生が悩んでいることになる。また56年度では、課外活動を何らかの理由によってやめた途中群にひどく悩んでいる率が多く、57年度では未加入群に多い。いずれにせよ、加入群より途中群、未加入群にひどく悩んでいる者がいることがわかった。

また一方、悩みの全くないのも未加入群に多く、無自覚型、逃避型、価値否定型とそれぞれのタイプが考えられ、こゝにも何らかの問題があるのではないかと

思われる。

彼らの悩みごとは一体どのような内容のものであろうか。次の14項目の中から、一番悩んでいる内容のものから1, 2, 3の順に3つの項目を選ばせた。その結果は表3のとおりである。

- 項目 1.友人関係 2.成績関係 3.課外活動 4.自分の性格 5.病気や身体的問題 6.物事に熱中できない 7.恋愛問題 8.経済的問題 9.家族との関係 10.教師との関係 11.人生・思想上の問題 12.進学・就職(将来について) 13.なんとなくノイローゼ気味 14.その他

表3 悩みの内容①

群	順位	1	2	3	4	5	
加入群	1 番目	課外活動	自分の性格	進学・就職	成績関係	恋愛問題	
	2 番目	進学・就職	成績関係	自分の性格	友人関係	課外活動	恋愛問題
	3 番目	成績関係	進学・就職	経済的問題	課外活動	自分の性格	恋愛問題
	全 体	進学・就職	成績関係	自分の性格	課外活動	恋愛問題	
途中群	1 番目	進学・就職	恋愛問題	身体的問題	成績関係	自分の性格	物事に熱中できない
	2 番目	進学・就職	自分の性格	課外活動	経済的問題	恋愛問題	
	3 番目	進学・就職	自分の性格	成績関係	恋愛問題	友人関係	人生・思想上～
	全 体	進学・就職	自分の性格	恋愛問題	成績関係	経済的問題	
未加入群	1 番目	進学・就職	成績関係	自分の性格	恋愛問題	友人関係	経済的問題
	2 番目	進学・就職	経済的問題	自分の性格	恋愛問題	成績関係	友人関係
	3 番目	進学・就職	成績関係	自分の性格	経済的問題	人生・思想上～	ノイローゼ気味
	全 体	進学・就職	成績関係	自分の性格	経済的問題	友人関係	ノイローゼ気味

(注 57年度調査結果)

全体からみると、進学・就職（16％）成績関係（14％）自分の性格（13％）課外活動（10％）恋愛問題（10％）経済的問題（9％）友人関係（8％）と項目が分散している。

課外活動の加入群、未加入群別にみると、加入群は進路（将来）について成績関係、自分の性格、課外活動、恋愛問題が上位を占め、途中群は進路について自分の性格、恋愛問題、成績関係、経済的問題、物事に熱中できないなどを挙げ、未加入群もやはり進路、成績、自分の性格、経済的問題、友人関係、そしてなんとなくノイローゼ気味が上位を占めている。

加入群は、課外活動について悩んでいる比率が他の群より多いのは当然かと思われる。

課外活動についての悩みの内容は、調査項目に設けていないので明確ではないが、クラブをやめた理由や、

来談者の相談内容から次のように推測される。

- ・練習がきつい（厳しい）
- ・学習時間がなくなる
- ・先輩後輩関係
- ・レギュラーメンバーに入れない
- ・退部したいがやめさせてくれない
- ・対抗試合の勝敗について
- ・行事を企画することが出来ない
- ・リーダーになったための責任などである。

悩みの内容項目で、今まで目立たなかった経済的問題がどの群も上位に挙ってきていることが注目される。

また、この悩みの内容を多少悩んでいるA群とひどく悩んでいるB群の面からみてみると表4に示すように、A群は課外活動の加入群、未加入群と同じ傾向であり、B群は恋愛問題がトップで自分の性格、なんとなくノイローゼ気味が上位を占め、課外活動の途中群と似た傾向を表している。

表4 悩みの内容②

群	順位	1	2	3	4	5	
A(多少)	1 番目	進学・就職	成績関係	自分の性格	課外活動	恋愛問題	友人関係
	2 番目	進学・就職	成績関係	自分の性格	友人関係	恋愛問題	経済的問題
	3 番目	進学・就職	成績関係	自分の性格	経済的問題	恋愛問題	課外活動
	全 体	進学・就職	成績関係	自分の性格	経済的問題	恋愛問題	経済的問題
B(ひどく)	1 番目	恋愛問題	成績関係	課外活動	自分の性格	進学・就職	ノイローゼ気味
	2 番目	自分の性格	成績関係	恋愛問題	進学・就職	経済的問題	友人関係
	3 番目	ノイローゼ気味	成績関係	課外活動	進学・就職	友人関係	自分の性格
	全 体	恋愛問題	成績関係	自分の性格	課外活動	進学・就職	ノイローゼ気味

これらの悩みごとを主にどのように解決しているのか、6項目の中から選ばせた結果が表5である。

表5 悩みの解決方法

項目	群	加 入	途 中	未加入	全 体	悩みA	悩みB
1	自分一人で考える	43	43	52	44	44	46
2	友人に相談	48	43	39	46	46	43
3	家族と相談	4	5	6	4	5	2
4	先生と相談	0	2	1	1	1	0
5	専門家と相談	0	2	0	1	0	1
6	その他	5	5	2	4	4	8

一人で考え解決している学生は全体で44%（56年47%）である。次に相談相手として項目2の友人が大きな位置を占めている46%（32%）。課外活動の加入、未加入群別にみると項目1の一人で考えるのは加入群（43%）より未加入群（52%）に多く、項目2の友人に相談するのは加入群（48%）に多い。

また、悩みのA群（多少）B群（ひどく）別にみると、わずかではあるが項目1はB群に多く、項目2はA群に多い。

以前（昭和52年）に富山、石川の県立高校生(1,367名)に調査した結果をみても、やはり項目1について

は加入群（51%）よりも未加入群（60%）が多く、項目2は未加入群（27%）よりも加入群（36%）が多かった。

高校、大学生において悩みの内容は、学級の成績や将来（進路）の決定といった種類のものが中心であることを考えれば、友人というものが単なる仲の良い仲間という域を越えて、普段の活動から将来の生き方にまで影響を与える重要な存在となる（友人志向型）。

項目6その他の内容については ・本を読む ・心配ごとを忘れる ・神佛に頼む（祈る） ・何かに打ち込む ・解決できない…などであった。

職 員 消 息

《改 姓》

庶務部

事務補佐員 永森 徳枝（旧姓 高柳）

経済学部

助 手 谷川 裕子（旧姓 熊野）

《新 任 者》

教養部

講 師 湯川 純幸
（英 語）

教務補佐員 石丸 茂雄
（化 学）

《住所変更》

庶務部

文部事務官 長田 昭夫

事務補佐員 永森 徳枝

教育学部

助 教 授 浅沼 照雄

文部事務官 藤井 栄吉

工 学 部

文部事務官 熊崎 卓己

経済学部

助 手 谷川 裕子

事務補佐員 柳瀬利英子

文部事務官 武田 正夫

教 養 部

教 授 世利 幹雄

理 学 部

助 手 高安 紀

文 部 技 官 水島 俊雄

《住所表示変更》

教育学部

教 授 藤木 興三

主 要 行 事

本 部

- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| 5月6日 | 第5回学長選考管理委員会
会計係長会議 | 13~14日 | 第36回東海・北陸地区国立学校等庶務部
課長会議（於、愛知教育大学） |
| 9日 | 人事担当者会議（於、文部省）
中国遼寧省一行来学
X線（間接）撮影（5/24まで 但、水・
土除く） | 14日 | 第35回北陸地区国立大学体育連盟運営
協議会（於、金沢大学） |
| 10日 | 第1回入学試験管理委員会
全国保険管理協会・東海・北陸地方部会
幹事会（於、金沢大学） | 16日 | 第6回学長選考管理委員会
部課長会議 |
| 10~11日 | 昭和58年度各省庁地方支分部局等決算関係
事務研修会 | 17日 | 第7回学長選考管理委員会
次期学長候補者選挙
第2回評議会 |
| 12日 | 第40回東海・北陸地区国立大学長会議及び
事務局長懇談会（於、静岡大学）
授業料等減免選考委員会
第2回補導協議会 | 18日 | 定期健康診断 |
| 13日 | X線（間接）撮影
昭和58年度学生の厚生補導関係事業計画の
説明（於、文部省） | 19日 | 昭和58年度文部省共済組合主管課長会議 |
| | | 20日 | 中部地区学生補導厚生研究会常任幹事会
（於、京都大学）
中部地区学生補導厚生研究会第27回總會
（於、京都大学） |
| | | 23日 | 58年度国立大学事務局長会議
（於、国立教育会館） |
| | | 23~25日 | 共済組合年次監査 |
| | | 24日 | 第64回東海・北陸地区国立大学学生部課長
会議（於、浜松医科大学）
昭和58年度大学入学者選抜教務関係事項 |

- 連絡協議会（於、大阪大学）
昭和59年度大学入学者選抜共通第1次学力
試験実施担当者会議〈第1回〉
（於、大阪大学）
- 25日 定期健康診断
- 26～27日 昭和58年度国立学校等経理部課長会議
- 27日 第2回部局長懇談会
大学・高等専門学校奨学生事務協議会
（於、高志会館）
- 30日 第38回国立大学学生部次長協議会
（於、東京大学）
- 31日 開学記念日
永年勤続者表彰
人事担当課長会議（於、人事院中部事務局）
昭和58年度国立大学学生部次長・課長・国
立高等専門学校学生課長会議
（於、東京医科歯科大学）

人 文 学 部

- 5月9日 教育実習委員会
- 11日 学部教務委員会
学部補導委員会
教授会
- 13日 10月移行対象者オリエンテーション
学部教務委員会
- 19～20日 第18回15大学人文系学部長会議
（於、静岡大学）
- 25日 3・4年次生の健康診断
学部補導委員会
- 25日 教授会
コース代表者会議

教 育 学 部

- 5月2日 自然観察実習センター運営委員会
- 9～10日 日本教育大学協会北陸地区会評議員会
（於、金沢大学）
- 11日 人事教授会
- 12～13日 日本教育大学協会第一部会（於、熱海市）
- 16日 学部予算委員会
- 17～18日 附属小学校研究発表会

- 23日 教育実習検討委員会
附属学校運営委員会
- 24日 教育実践研究指導センター運営委員会
- 24～25日 全国国立大学教員養成学部事務長協議会
（於、銚子市）
日本教育大学協会北陸地区第二部会家庭科
研究協議会（於、芦原町）
- 25日 学部教務委員会
教授会
- 26～27日 日本教育大学協会北陸地区第二部会技術・
職業・職業指導部門研究協議会
（於、芦原町）
- 29日 全国国立大学附属学校連盟理事会・代議員
会（於、東京）
- 30日 内科検診

経 済 学 部

- 5月9日 日海研運営委員会
- 11日 学部教務委員会
教授会
- 23日 学部補導委員会
各種委員選考委員会
- 24日 学部将来構想検討委員会
- 25日 学部教務委員会
人事教授会
教授会
- 27日 学部職業補導委員会

理 学 部

- 5月2日 学部補導委員会
- 9日 ガラス工作室運営委員会
- 10日 学部教務委員会
- 11日 教授会
人事教授会
理学研究科委員会
- 23日 学科主任会議
- 26～27日 国立15大学理学学部長会議
（於、静岡大学）

工 学 部

- 5月7日 選考委員会
- 11日 教授会
専任教授会
工学研究科委員会
- 16日 学科主任会議
- 18日 教務・補導合同委員会
学部教務委員会
- 23日 入学試験検討委員会
- 25日 定期健康診断（X線間接撮影，内科検診）
- 26日 定期健康診断（X線間接撮影）
- 26～27日 第33回国立大学工学部長会議・総会
（当番校：宮崎大学）
- 30日 選考委員会
学科主任会議

教 養 部

- 5月11日 推薦委員会
紀要委員会
補導委員会
- 18日 教授会
補導委員会
- 25日 補導委員会
- 25～26日 全国国立大学教養部長・事務長協議会
（於，鳥取大学）

附 属 図 書 館

- 5月4日 附属図書館電算化研究会
- 10日 商議会
- 10～24日 X線間接撮影
- 11日 富山県図書館協会総会
（於，富山県立図書館）
附属図書館電算化研究会
- 18日 ”
- 23日 国立大学図書館協議会・理事会
（於，東京大学）
- 24日 国立大学附属図書館事務部課長会議
（於，東京医科歯科大学）
- 25日 附属図書館電算化研究会

保健管理センター

- 5月10日 全国保健管理協会東海・北陸地方部会幹事会
- 9～24日 昭和58年度定期X線（間接）撮影
- 18日 昭和58年度定期健康診断（経済学部）
- 25日 ” （人文学部）

経営短期大学部

- 5月11日 第1回授業料等減免選考委員会
- 12日 第2回財務委員会
- 14～15日 昭和58年度厚生補導特別企画学生研修会
（於，石川県中島町国民休暇村小牧台）
- 19日 第3回財務委員会
第4回教授会
- 21日 経済学部・経営短大親睦会定期総会
- 24日 第1回奨学生選考委員会

◇訂 正（おわび） 学報 昭和58年5月1日発行 第234号

ページ	訂 正 箇 所	誤	正
12	学事の昭和58年度文部省在外研究員派遣予定者の決定の表中，調査研究題目の項目。	真核生物の織手・ 鞭毛	真核生物の織毛・ 鞭毛
13	人事異動表中，任命権者の項目，下から1行目と2行目。	梶原和枝 吉崎歳光 富山大学経営短期大学部学長	梶原和枝 富山大学経営短期大学部学長 吉崎歳光 富山大学学長

資 料

昭和57年度 卒業生産業別就職状況

昭和58年5月1日現在

産業別		学 部						合 計	産業別		学 部						合 計
		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	文学部	工学部				人文学部	教育学部	経済学部	理学部	文学部	工学部	
農 業				1			1	不 動 産 業									
林 業								運 輸 ・ 倉 庫 業		1		8	1		2		
漁 業 ・ 水 産 養 殖 業								電 気 ・ ガ ス ・ 水 道				2			5		
鉱 業					1		1	マ	新 聞 ・ 出 版	11		2	1		14		
建 設 業		4		3	2		9	コ	ミ ラ ジ オ ・ テ レ ビ								
製 造 業	食 料 品	1		7	2		3	小 計		11		2	1		14		
	織 維			3	1		7	サ	広 告 ・ 観 光 業			1			1		
	印 刷	2		3			4	ル	医 療 保 健 業	1		1	1		3		
	化 学 工 業	1	1	7	7		17	ビ	非 営 利 的 団 体				1		1		
	石 油 ・ 石 炭 製 品			2			2	ス	公 典 企 業 体 等								
	鉄 鋼						4	小 計		1		2	2		5		
	非 鉄 金 属	3	1	1	2		9	教 育		20	157		29		1		
	金 属 製 品			9			16	公	国 家 公 務 員	1		13	1		1		
	一 般 機 械 器 具	2		3	2		34	務	地 方 公 務 員	11	3	18	3		7		
	電 気 機 械 器 具	3		9	15		57	小 計		12	3	31	4		8		
輸 送 用 機 械 器 具	4		3			26	上 記 以 外 の も の		36	14	58	27	3	22			
精 密 機 械 器 具	1	1		2		4	合 計		119	178	234	99	3	247			
そ の 他	1		6			15											
小 計		18	3	53	31		196	規 模 別 就 職 先	大 企 業 (従 業 員 数)	46	2	161	32	1	192		
卸 小 売 業	商 事 ・ 貿 易	3	1	3			2		中 企 業 (従 業 員 数)	24	8	32	27	2	38		
	百 貨 店 ・ ス ー パ ー	7		15			2		小 企 業 (従 業 員 数)	8		8	2		8		
小 計		10	1	18			4		企 業 以 外	41	168	33	38		9		
小 計		6		56	1		63										
金 融 保 險	銀 行	2		17			19										
	信 用 金 庫 ・ 信 用 組 合			16			16										
	保 險 業	2		12			14										
	証 券 ・ 商 品 取 引	2		11	1		14										
小 計		6		56	1		63										

地 域 別 就 職 状 況

昭和57年度

学部	地方	北海道	東 北	関 東	中 部		近 畿	中 国	四 国	九 州	海 外	合 計
					富山県	その他						
文理学部		0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3
人文学部		0	0	18	57	36	6	1	1	0	0	119
教育学部		0	0	2	154	22	0	0	0	0	0	178
経済学部		0	0	56	81	73	21	2	1	0	0	234
理学部		0	0	27	35	33	4	0	0	0	0	99
工学部		0	1	57	103	58	28	0	0	0	0	247
合 計		0	1	160	431	224	59	3	2	0	0	880
%		0	0.1	18.2	49.0	25.5	6.7	0.3	0.2	0	0	100

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あ け ぼ の 企 画
富山市曙町8-4
電話 (33) 3 3 5 6 (代)